

韓国人留学生の日本語発話で見られるトランスランゲージングについて Translanguaging in the Japanese Speech of Korean Students

羅炫貞, 専修大学
Hyunjung Na, Senshu University

1. はじめに

尾辻 (2016) は、今日、出身地域が異なる人々の接触で、従来は別言語として考えられた語彙や文法などの言語資源の混在するレパートリーを持ち、日常的に駆使する人々も多いと言われている。日本に在住している韓国人留学生は、日本語を第二言語として習得し、二言語使用話者である。母語話者で会話をする際、母語から日本語に切替えたり、交えて話すことが多々ある。これは二つの言語を使う環境にある二言語話者「バイリンガル」や、または複数の言語を使う環境にある多言語話者「マルチリンガル」の間でよく見られる言語現象である。韓国語は、日本語と同じく SOV 言語に分類され、文法的な類似性を持つ言語であるため、会話の中で、日本語と韓国語を混用して使いやすい言語である。

本研究では、韓国人留学生の言語生活、特に日本語と韓国語のトランスランゲージングの実態を調べるため、分析対象として、日本の大学に在学している韓国人留学生の母語場面における自然会話をを用いて分析を行う。自然会話をビデオ撮影し、どのようにコミュニケーションを構築していくのか、会話で現れる言語混用の実態について観察する。

2. コードスイッチングとトランスランゲージングについて

Valdes-fallis (1977) は、バイリンガル話者、またはマルチリンガル話者が二言語以上の言葉を同時に交差して使用することがあり、このような現象を「コードスイッチング」と定義している。

トランスランゲージングの定義を、Canagarajah (2011) は多言語話者が自分のレパートリーである多様な言語を扱い、言語間を行き来する能力と述べている。言語間を行き来することを指すという点で、コードスイッチングと似ている。Garcia (2009) によると、コードスイッチングとトランスランゲージングの違いについて述べている。コードスイッチングは第一言語と第二言語と独立した言語として捉え、その二言語を切り替えるとしている。それに対して、トランスランゲージングは、第一言語と第一言語を独立した言語として捉えず、一つの言語システムとして捉えている。「trans」という言葉が示すように、言語の境界線を越えて言語を駆使し、コミュニケーションを図ることに焦点が当てられている。そのため、従来のように、言葉を混ぜるといことが肯定的に捉えられている。コミュニケーションを図ろうとする意味では、言語の発達に欠かせないと Garcia (2009) は述べている。

本研究では、今後多様化社会において、動的な言語システムを肯定的な意味として解釈したため、言語間を行き来することをトランスランゲージングとして捉えることにした。

3. 研究の取り組み

3.1 調査協力者

表1 調査協力者・会話データの情報

グループ	ID	年齢	性別	日本滞在期間	日本語レベル	調査期間	録画時間	撮影場所
1	K1	20代	男	3年	N1	2019年 10月	5時間	調査対象者の自宅
	K2	20代	男	4年	N1			
2	K3	20代	女	2年	N1	2020年 9月	5時間	調査対象者の自宅
	K4	20代	女	2年	N1			

3.2 分析方法

韓国人留学生の言語生活、特に日本語と韓国語のトランスランゲージングの実態を調べるため、分析対象として、日本の大学に在学している韓国人留学生の母語場面における自然会話のデータを用いる。自然会話をペアで5時間ずつビデオ撮影し、収集したデータを文字化する。ELAN（映像、音声ファイルを見聞きしながら、その中身に対して注釈をつけていくソフト）、MAXQDA（質的、量的、及び混合研究法によるデータ分析専用のソフトウェア分析）ソフトウェアを用いてトランスランゲージングが見られた部分に注目した。人名、地名、駅名はほとんど韓国語の訳語が存在しないため、トランスランゲージングの例として扱わない。

会話例の書き起こしに用いられている記号については、以下のジェファーソン式トランスクリプション記号を使用している。

[文字]	二人以上が同時に話し始めている位置を示す	=	前後の発話が切れ目なく続いていることを示す。
(数字)	数字が表す秒数の間が空いていることを示す	(.)	ごくわずかの間（おおむね0.1秒前後）があることを示す
文字::	音がコロシ延ばされていることを示す。	文字-	直前の語や発話が中断されていることを示す。
文字.	尻下がりの抑揚を示す。	文字?	疑問符は、尻上がりの抑揚を示す。
文字;	やや尻上がりの抑揚を示す。	↓文字	下向き矢印は、直後に急に音が低くなっていることを示す
文字,	発話が長くように聞こえる抑揚を示す。	↑文字	上向き矢印は、直後に急に音が高くなっていることを示す。
文字_	アンダーバーは、平坦な抑揚を示す。	文字	下線部分が強められて発話されていることを示す。
文字!	感嘆符は、弾んだ抑揚を示す。	*文字*	* 囲まれた部分* が弱められて発話されていることを示す。
hh	小文字のhは呼吸音を示す。	.hh	ドットに先立たれた小文字のhは呼吸音を示す。
母音を伴ったh	笑っている事を表すときに、その笑いの発音がどの母音に近いかを表す	em	呼吸音の中でも、口唇等で調節され、e音に聞こえるものを示す。eが多いほど呼吸音が高い。
.em	ドットを先につけた小文字のeは、e音に聞こえる呼吸音を表す。すすり音等。	文(h)字(h)	笑いながら発話している部分を示す。
文h字h	笑いではない呼吸音が発話に重ねられていることを示す。	¥文字¥	呼吸音が重ねられてはいないが、笑いを帯びた声質(smiley voice)で発話されていることを示す。
<文字>	不等号で囲まれた部分が、前後に比べてゆっくりと発話されていることを示す。	>文字<	不等号で囲まれた部分が、前後に比べて速く発話されていることを示す。
(文字)	聞き取りに確信が持てない部分は丸括弧で囲って示す。	(...)	まったく聞き取れない部分は、丸括弧の中に...を囲い示す。...の長さは、聞き取れない箇所長さに比例する。
(X/Y)	XかYかいずれかに聞こえるが、どちらであるか確信が持てないことを示す。	((文字))	転記者によるさまざまな種類の注釈・説明は、二重丸括弧で示す。

4. 調査結果

4.1 韓国語に言い替え

表 2 日本語使用の語彙項目

品詞	K1	K2	K3	K4	合計	割合 (%)
名詞	31	71	53	27	182	62.5
動詞	0	0	1	2	3	1.0
形容詞	6	5	4	0	15	5.2
副詞	2	1	1	2	6	2.1
助数詞	7	23	0	0	30	10.3
節	0	1	0	0	1	0.3
文	13	19	16	6	54	18.6
合計	59	120	75	37	291	100

例の下線が引いてある語彙が日本語使用されたところである。トランスランゲージングの後、直ちに韓国語に言い替える特徴が見られた。例1では「トルコ」、例2では、「原爆ドーム」を日本語で言い、直ちに韓国語に言い替える。例3では、「部活」という単語がトランスランゲージングされたが、「部活」は省略語であり、韓国語に直訳すると、不自然であるため、K1は「部活」を言った後、「サークル活動」に言い替えた。「学生ローン」を言った後は、「学生」だけ韓国語に言い替え、その後、「ローン」を借金と言い替え、「学生借金」と発話した。

例1)

K2: 럭비? hh 뭐 (0.3) 뭐지? 도쿄 올림픽 마라톤 샷포로로 뭐 변경됐다고 막 그런 얘기 나오고 예전에도 뭐 시리아 그 뭐냐? トルコ가 그니까 터키가 뭐

訳)

K2:ラグビー? hh 何だっけ? (0.3) 東京オリンピックのマラソン、札幌に変更されたという話が出て、昔もシリア、何だっけ? トルコが、あのトルコが、

例2)

K2: 한번은 그 뭐냐 그 뭐지? 히로시마 갔다 왔잖아요 히로시마에 보면은 原爆ドーム가 있거든요、원폭돔、

訳)

K2:以前一回、何だっけ? (0.4) 広島へ行ってきたんですけど、広島に行くと、原爆ドームがあるんですよ、原爆ドーム

例 3)

K1: 그 사람 部活 서클 활동도 하면서 쫓 《혀를 참》 마지막 쫓 《혀를 참》
잘 다녔던거 같다 어휴 《한숨》 나는 못 할거 같다 내 학생ローン이라
해야하나? 학생론? 학생빚?

訳)

K1: 先輩、部活、サークル活動しながら、ちっ《舌打ち》最後まで、ちっ《舌打
ち》無事に卒業した。アヒュー《ため息》私は、私だったら無理かも。私は、ま
あ、学生ローンだっけ? 学生ローン? 学生借金?

4.2 日本語の形容詞+韓国語の補助動詞ハダ

日本語の形容詞と韓国語の補助動詞ハダ(する)が混用した特徴が見られた。
例 4 では、日本語のイ形容詞「すごい」の後に韓国語の補助動詞を混用して使っ
ている。例 5 では、日本語のナ形容詞の後に、韓国語の補助動詞が使われてい
る。

例 4)

K2: 合同ゼミ에서 합동제미에서 ○○大랑 여러대학이랑 해서 하거든요?

K1: 응

K2: 발표했을 때 거기서 그 끝나고 회의 아니 회식 비슷하게 그런거
하거든요?

K1: 응

K2: 갑자기 나한테 그 (0.2) 나머리가 すごい하다고 나머리、

K1: [응

K2: [그니까 방언、나머리가 すごい하다고 어디 지방 출신이냐고

K1: 아 :: 근데 그거는 어떻게 보면은 혹시 니 상처 받을까봐 약간
그런걸수도 있다.

訳)

K2: 合同ゼミで、合同ゼミで○○大と色んな大学と一緒にするんですよ?

K1: うん

K2: 発表の後に会議、いや、打ち上げをしたんですよ?

K1: うん

K2: 急に私に、(0.2) なまりが 凄いと、なまり、

K1: [うん

K2: [方言、なまりが 凄いと、どこの地方出身かと言われて

K1: あ::それはもしかしたら君に傷つかせないため、そうゆう風に言ったかもしれ
ない。

例 5)

K4: (점장) 입사하고 나서 (상사한테) 혼났나봐 주의도 몇번 당하고 그래서 뭐 이제 관둔다고 그러던데

K3: 근데 그 사람 그만두고 완전 厳しい한 사람 [오면 어떻게?

K4: [((그러게)) 깐깐한 사람

K3: 그니까

訳)

K4: (店長が) 入社した後、(上司に) 怒られたみたい。

注意も何回かされ、辞めるって。

K3: その人辞めて、厳しい人が [来たらどうする?

K4: [((相槌)) 几帳面で気難しい人

K3: 本当だよな

4.3 文レベル

名詞の次に高い割合を占めたのが、文レベルのトランスランゲージングである。文レベルの日本語使用は、過去の出来事を直接的・間接的に引用する時に多く見られた。また、例え話をする時に文レベルのトランスランゲージングが起きやすいのが分かった。状況をリアル・効果的に相手に伝えることができるからだと考えられる。

例 6)

K1: 종업원이 이렇게 만약에 하다가 좀 었었어 니 바지에다가 엄마야 하면서 물을 었었어 (0.3) [°그러면

K2: 저 [같은 경우는

K1: 화낼꺼야? (0.5) 何してますか? hh

K2: 약간 좀 아 처음에 아 좀 빠지다가 갑자기 그 종업원이 あ、すみません、申し訳ございません 이렇게 [하면은 hh

K1: [hh 아、아、しょうがないね hh

K2: 아~~~~hh

K1: 뭐 화낼수도 없고 갈굼수도 없고 이런거?

K2: 気をつけてください hh

訳)

K1: 例え話で、店員さんからこうゆう風に水を溢されたらさ!ズボンにあららと言いながら、水を溢されたら、(0.3) [°そうしたら、

K2: 僕[だったら

K1: 怒るの? (0.5) 何してますか? hh

K2: ちょっと、あ、最初は、あ、イラっと思うけど、店員さんが、あ、すみません、申し訳ございませんと [言ったら hh

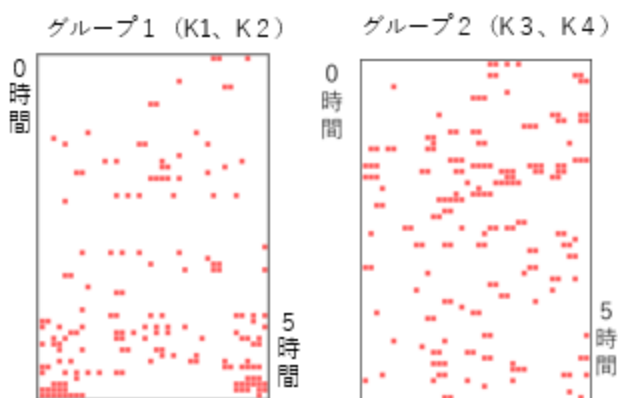
K1: [hh あ、あ、しょうがないね hh

K2: あ~~~~hh

K1: 怒れないし、仕方ないって感じ？

K2: 気をつけてください hh

4.4 トランスランゲージングの頻度



赤色に表示されているのはトランスランゲージングが起きたところである。以下の話題の順で日本語の使用が多く見られた。

グループ 1

兵役<韓国<学生時代<恋愛・結婚<日本<友達<アルバイト<大学生活

グループ 2

家族<韓国<学生時代<恋愛・結婚<友達<日本<アルバイト<大学生活

グループ 1 は、兵役の話題には日本語の使用が全く見られず、韓国の政治や歴史の話題にもほとんど日本語の使用が見られなかった。2つのグループとも、アルバイトと大学生活についての話題に日本語の使用が多く見られた。調査協力者の全員は日本の大学に在学していて、日本語のレベルも似ているため、キャンパス言葉など大学生活で使う日本語はそのまま日本語で発話することが分かった。

5. まとめ

韓国人留学生の自然会話を観察した結果、トランスランゲージングの60%以上が、日本語の名詞である。日本語と韓国は語順が同じであるため、名詞の単語を入れて使いやすい。トランスランゲージングの特徴は、日本語を発話した後、直ちに韓国語に言い替えるパターンが見られた。また、日本語のイ形容詞・ナ形容詞の後に韓国語の補助動詞（ハダ）を混用して使うことが観察できた。直接的・間接的な引用は、単語レベルではなく、文レベルのトランスランゲージングが多い。話題により、トランスランゲージングの頻度の違いが見られ、特に、日本でのアルバイトと大学生活について会話をする時、トランスランゲージングの頻度が高い。仲間同士でより、リアルな状況を伝えやすくするため、または、仲間意識を高めるために、トランスランゲージングが起きやすいと考えられる。

6. 今後の課題

本研究では、親疎関係である日本語上級者のグループの自然会話を観察したが、今後の研究として、親疎関係である、日本語初級者と上級者の会話をではどのような傾向は見られるのか研究を続けたい。

参考文献

- 尾辻恵美 (2016) 「レパトリー、ことばの教育と市民性形成 —ことばの共生を目指す市民性形成とは」 細川英雄, 尾辻恵美, マルチェッラ・マリオッティ (編) 『市民形成とことばの教育—母語・第二言語・外国語を超えて』 20-41 くろしお出版
- Canagarajah, S. (2011). Translanguaging in the classroom: Emerging issues for research and pedagogy *Applied Linguistics Review* 2: 1-27.
- García, O. (2009). *Bilingual Education in the 21st Century: A Global Perspective* Malden, MA: Wiley-Blackwell.
- Valdes-Fallis, G. (1977). Code-switching among Bilingual Mexican-American Women: Towards an Understanding of Sex-related Language Alternation. *International Journal of Sociology of Language*, 17, 65-72.